

平成24年度 福島県社会教育研修会（福島市）

対象は学習センターの
係長・主任さんです。

と き：平成24年9月27日（木）

と ころ：福島市飯坂学習センター

テーマ：学習センターにおける地域住民の元気づくり

1 研究発表

研究テーマ「震災後における学習センターの役割

～地域住民の元気づくりをめざして～

福島市松川学習センター 主査 甚野一彦 氏



平成24年度東北大学社会教育主事講習に参加したときの演習のまとめを発表していただきました。福島市松川工業団地の仮設住宅や南相馬市鹿島区仮設住宅を訪問してアンケート調査をした結果をまとめ、松川学習センターや鹿島生涯学習センターへの提言がなされ、今後の実践に活かされる予定です。

2 講 話

「今だからふるさとの魅力再発見」

県北教育事務所 主任社会教育主事 酒井隆志



県北地方振興局と県北教育事務所が連携して行っている事業「ふるさとの魅力再発見『いいの地元学』」や吉井田学習センターが行っている「吉井田地区ふるさと再発見ウォーク」など、主に福島市に関する地元学の取組みが紹介されました。地域のよさを見付け地域を誇りに思うことで住民も元気になる活動を各学習センターでも企画してはいかがでしょうか？

3 グループ協議

「学習センターにおける地域住民の元気づくり」



最後に、2班に分かれて、グループ協議が行われました。始めは、仮設住宅の住民との交流を図った事業について話し合われました。「秋の文化祭で地域の住民とともに作品の展示を行う予定である。」「学習センターに来た仮設住宅の方にはチラシを配って事業の案内をしている。」「陶芸家などの特技を持っている方々を講座の講師に活用したい。」「図書室の利用者として受け入れ、学習センターへ立ち寄る機会にしたい。」等の意見が出されました。

その後、地域のよさを生かしながら、学習センターとして「元気づくり」にどう取組めばよいか話し合いました。「秋の文化祭はまさに地域の特徴を生かした「元気づくり」につながっている。」「学習センターに来る人たちは、自動車や自転車を運転できる元気な人たちである。」「車が無い人たちも何とか巻き込みたい。」「放射線の影響を考慮して、幼児と親を対象に『多目的ホールで遊ぼう』のセンター主催事業を行っている。」等たくさんの意見が出された他、情報交換の場になりました。